

肺がん読影会・肺がん研究会

肺がん読影会



我々、医療機関で肺がん検診を行うとその写真をすべて肺がん読影会に提出します。そこでは各医療機関から出されたすべての写真を参加者全員で検討して「異常なし」「異常あるが肺がんと関係なし」「肺がんの疑い」など分類します。



8月の読影会に当院は16件提出し、肺がんの疑い5件となりました。そうするとCT検査を受けることとなります。この内CTの結果やはり肺がんの疑いとなる人が1人か2人ですが、要CTといわれた段階で全員が肺がんの疑いになってしまった様に感じらしいのです。

肺がん研究会

肺がん読影会で、肺がんの疑いとなってCTをやったそのCT、それから前回の比較という指示のものもあります。その他自分の診療で疑問のあるものなどを全員医師と県立がんセンター医師が勉強会をおこないます。ここで検討されるものは20例位ですが、この内1〜2例ががんセンターでの精検となることが多いです。ですから要CTといわれた人の10人〜20人に1人が本当に肺がんの疑いということになります。



この本当に肺がん疑いの人が、県立がんセンターで精密検査を受けることとなります。このがんセンターで検査を受けた人の10人に1人位が本当の肺がんです。

私たちの探している肺がんは直径1〜1.5cm位(1円玉大)のものです。普通の胸部レントゲンではほとんど見つからないものですので少しあやしいものはできるだけCT検査をして見逃しのないよう注意しています。



腹部超音波検査(エコー)

胆石症や尿管結石など、お腹が激しく痛む病気の診断に有力です。肝臓や膵臓の診断にも力を発揮します。

超音波検査は空気があると非常にやりにくくなります。お腹の中の臓器で空気が多い臓器は胃と腸ですが、この方はレントゲンや内視鏡検査で検査ができます。



ですから当院では、胃内視鏡検査をする時には同時になるべく超音波検査を行うようにしています。これでお腹の痛む病気はほとんど解決できることとなります。



私(院長)が大学の研究室に居た頃、私達の研究室では、肝臓と胆管系の病気を研究していました。

その頃、胆石症や胆のう癌の診断は大変でした。

大学が終わり開業する時、超音波検査の器械を見てこんな便利なものができたかと驚いたものでした。



院長

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

☆受付けからのお願い

月初めには必ず保険証を受付にお出し下さい。診察券は毎回お持ち下さい。

☆編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。

E・メールを送って下さい。

norikazu@okutu.jp



9月・10月の休診日

休診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜

